

第3次読書のまち八王子推進計画 平成28年度実績及び平成29年度実施計画

計 画 内 容			所管部名	平成28年度 実績	平成29年度 実施計画	
No.	具体的な取組み	取組み内容				
<b>第一章 子ども読書活動推進編</b>						
<b>1. 地域における読書活動の推進に向けた取組み</b>						
① 身近な子ども関連施設や家庭での読書活動の推進	1	ブックスタート事業及び健診時における読み聞かせの実施	市が主導して、ブックスタートボランティア会員を募り、ブックスタート事業への参加を促す。ボランティアと図書館、保健福祉センターが連携し、心安らぐ子育て支援の一環として、3～4か月児、3歳児健診の場で、絵本を介した読書活動を実施する。	図書館部	市内3か所の保健福祉センターにおける産婦3～4か月児健診において、年間延べ72回（受診者数3,534人）ブックスタート事業を実施し、親子の前で読み聞かせを実施し、絵本を介した読書活動の大切さを周知した。 また、3歳児健診においても同様に年間72回3,847名の親子への読み聞かせを実施した。	市内3か所の保健福祉センターで実施する産婦・3～4か月児健康診査におけるブックスタート事業及び3歳児健康診査における読み聞かせを実施する。
				子ども家庭支援センター	子ども家庭支援センターにおいて募集している子育て応援団Beeネットボランティアを、図書館が実施しているブックスタート事業に紹介し支援した。	子ども家庭支援センターにおいて募集している子育て応援団Beeネットボランティアを、図書館が実施しているブックスタート事業に紹介し支援する。
				保健福祉センター	産婦・3～4か月児健診において、図書館部が実施するブックスタート事業を支援した。また、3歳児健診において、図書館部が実施する読み聞かせを支援した。	産婦・3～4か月児、3歳児健診時の待ち時間を活用し、ブックスタート及び読み聞かせを継続実施する。
	2	保育園、幼稚園等での読書活動の推進	子どもたちが多くの本と出会う最初の場所である保育園、幼稚園や、子育てひろば等での読み聞かせ活動により、読書習慣の形成に影響がある乳幼児期の読書活動の推進を図る。	図書館部	9月に、公立保育園全体の読書活動について、保育幼稚園課に対して聴き取り調査を行い、市立千人保育園の実施状況を視察した。 また、11月には、民営保育園、私立幼稚園における読書活動について、長房西保育園となかよし幼稚園を視察し、実情調査を行った。 この結果を受け、1月から、図書館情報を保育園・幼稚園や子ども達・保護者に広く周知するために、私立保育園協会と私立幼稚園協会の協力を得て、図書館広報「らいぶらりい」の配布・電子データ送付を開始した。	保育園、幼稚園、子育てひろば等での読み聞かせ活動の状況を把握に努め、図書館広報「らいぶらりい」などの読書情報を継続して届け、乳幼児期の読書活動を推進する。
				子ども家庭支援センター	子育て応援団Beeネットボランティアにより、子育てひろばを利用している子どもたちに対して、読み聞かせを行い読書習慣の定着を図った。	子育て応援団Beeネットボランティアにより、「子育てひろば」を利用している子どもたちに対して、読み聞かせを行い、読書習慣の定着を図る。
				児童青少年課	日常的に子育てひろばにおいて絵本、紙芝居、大型絵本等の読み聞かせを行った。	継続して子育てひろばにおいて読み聞かせの活動を行う。
				保育幼稚園課	全ての公立保育園において、1日1冊以上は日々の保育の中で保育士による読み聞かせを実施。またボランティアによる絵本の読み聞かせを定期的に実施した。	継続する。
	3	学童保育所、児童館や放課後子ども教室での、子どもの読書活動の推進	読書が習慣になるよう、小学校入学後も、学童保育所、児童館、放課後子ども教室での、子どもの読書活動の推進を継続的に実施していく。また、学童保育所や放課後子ども教室における学校図書館の利用や児童館の地域探検で、図書館利用を促す。	図書館部	8月に、子どもの読書活動についての聞き取り調査として、放課後子ども教室について生涯学習政策課に、児童館・学童保育所について児童青少年課に実施した。 また、9月には市立第十小学校における放課後子ども教室での読書活動を見学した。 そして、これらの調査結果を受け、児童館・学童保育所への図書館広報「らいぶらりい」の配布を1月から開始した。	児童館・学童保育所、放課後子ども教室で読書活動状況を把握する中で、読書情報（図書館広報「らいぶらりい」など）の周知を継続して実施することにより、児童や保護者に対する読書活動を推進する。
				児童青少年課	児童館において、おはなし会等による読み聞かせを31回実施。計590名の参加があった。また地域探検の一環として複合施設での活動時に空いた時間を利用して図書館にて積極的に読書に取り組む時間をつくった。	継続して読み聞かせ活動場所の提供に努める。そして自主的に図書館を利用できる時間を設定する。
				生涯学習政策課	放課後子ども教室では、1校増の12小学校で図書室を利用し、放課後の児童の安全・安心な居場所としての役割を果たすほか、児童が図書に触れる機会を提供した。	学校と調整し、図書室の利用を推進する。
	4	読書スペースや児童図書等の充実	家庭で役割を終えた絵本、児童書の寄贈を受けたり、図書館の団体貸出などを活用し、日常における子どもの活動場所にいつでも本があり、手に取りたくなるような環境づくりを進める。また、保育園や幼稚園では、保護者向けの育児書なども取りそろえる。	図書館部	図書館各館で実施した本のリサイクル（除籍資料の再利用）において、絵本などの再利用資料を、市内保育園や児童館などに優先して提供した。	図書館各館で実施した本のリサイクル（除籍資料の再利用）において、絵本などの再利用資料を、市内保育園や児童館などに優先して提供する。
				子ども家庭支援センター	地域子ども家庭支援センターみなみ野で、絵本の寄贈を受け活用した。 また、保護者向けに育児書を取りそろえ、貸出しを行った。	利用者等から寄贈される絵本を施設で活用する。 また、保護者向けに育児書の貸出しを行う。
				児童青少年課	児童館図書室において、日常的に図書の整理整頓、貸出し等を行った。 子育てひろばスペースについては、絵本棚を備品購入し、環境整備に努めた。	継続して児童館図書室、環境整備に努める。
				保育幼稚園課	各年齢ごと、保育室に子どもが落ち着いて絵本に触れる環境を提供した。また、保護者や近隣の方からの絵本の寄贈を受け入れ活用した。	年齢に応じた絵本や図鑑を取りそろえ、子ども達がいつでも楽しむことができる環境を提供する。
	5	親子に対する、図書の貸出しや情報の提供	保護者の育児支援のために、身近な子ども関連施設で、年齢に応じた絵本や育児書の紹介や貸出しなどにより、親子が家庭で本に親しむことができる機会をつくる。また園庭開放等で保育園や幼稚園を訪れる在宅子育て家庭に対し、絵本や育児書の貸出しや読み聞かせ講座を開催する。	図書館部	市内3か所の保健福祉センターで4月から開始した八王子版ネウボラにおける配布資料に、図書館からのメッセージとして、出産や育児に関する本が図書館で利用できることを周知した。  *八王子版ネウボラ：保健師が寄り添い、妊娠・出産・子育て期までの切れ目ない支援のこと。「ネウボラ」とは、フィンランド語で「アドバイスの場」を意味する。	市内の子育て施設での読書活動推進状況調査を踏まえ、図書館情報や各施設の読書活動推進の情報を各施設に発信し、保護者の育児支援や、親子が家庭で絵本などを読む機会を増やす支援を進める。 保健福祉センターで配付する育児パッケージに協力して、読書活動推進を図る。
				子ども家庭支援センター	子育て広場に育児書等を配備し、親子ふれあい広場や親子つどいの広場では貸出しを行った。	子育て広場に育児書等を配備し、親子ふれあい広場や親子つどいの広場では貸出しを行う。
				児童青少年課	子育てひろば専用スペースがある児童館10館において、絵本、育児書の充実と整備を行った。 また、地域ボランティアによる乳幼児親子への絵本の読み聞かせを行った。	継続して子育てひろば専用スペースにおいて育児書等の充実と整備に努め、子育て講座においても絵本の読み聞かせを行い、絵本への興味・関心を乳幼児だけでなく保護者にも持てるようにする。
				保育幼稚園課	全ての公立保育園において、保護者に絵本の貸出しの趣旨を説明し、週一回貸出しを行うとともに、イベントのお知らせやポスター等掲示した。 子育て広場を利用する家庭に対しても、適宜絵本の貸出しを実施した。	引き続き絵本の貸出しを継続する。子育て広場でも絵本や育児書の貸出しの推進を図る。
				子どものしあわせ課	子育て情報モバイルサイト「はち☆ベビ」のすくすく☆メールにて、読書週間のお知らせや、図書館お勧めの本を紹介、図書館のイベント情報を配信した。	子育て情報モバイルサイト「はち☆ベビ」のすくすく☆メールにて子どもの図書について情報を配信する。

計 画 内 容			所管部名	平成28年度 実績	平成29年度 実施計画	
No.	具体的な取組み	取組み内容				
② 子どもの読書活動に関わる人材の育成・支援・連携	6	地区図書室、地域文庫の蔵書充実や広報支援	地区図書室や地域文庫、地域子ども家庭支援センターへの希望図書の貸出しなど、関連所管が連携して、児童図書等の蔵書を充実させるための支援を行い、身近な場所での子どもの読書活動の推進を図る。また、これら施設の活動を図書館ホームページで紹介するなど広報活動を支援する。	図書館部	16か所の地区図書に対して、希望図書の聞き取りを行い2,622冊を購入、配布した。希望図書を含めた総団体貸出冊数は180,094冊となり、蔵書の充実を図ることができた。 地区図書室広報支援のための、地区図書室データの図書館ホームページへのリンクづけについては未実施 希望図書を聞き取りを行い296冊購入配布し、効率的な図書の選定や蔵書の充実を支援した。図書館内で、地域文庫のチラシ配布を行うなどPRに努めた。	引き続き、各地区図書室や地域文庫と連携を密にして蔵書の充実を支援する。 地区図書室の広報支援については、地区図書データを図書館ホームページにリンクづけるなどのPR施策について、地域文庫との協議を行う。
				協働推進課ふれあい財団	各地区図書室の選書に基づき、中央図書館から児童書等の新刊書の配本を受けた。 学園都市文化ふれあい財団のホームページに各地区図書室の開室日時を掲載した。	学園都市文化ふれあい財団のホームページに地区図書室の利用方法を掲載する。 読み聞かせ等の地区図書室毎のイベント情報を掲載する。
				子ども家庭支援センター	地域子ども家庭支援センターみなみ野にみなみちゃん図書館を設置し、図書館から本の貸出しを受ける等連携し、身近に本を借りられる環境を整えた。	引き続き図書館と連携し、身近に絵本を借りられる環境を整える。
	7	子育てサークルや読み聞かせボランティアへの活動支援	ホームページ等で団体の紹介を行い、読み聞かせを希望する団体との橋渡しを行うなど、サークルやボランティアが活動しやすい環境を整備する。また、サークルやボランティア向け講座の開催や、相互の情報交換の場を設け、ボランティアの活動を支援する。	図書館部	各図書館において、ボランティア団体によるおはなし会を開催するなど、活動する場を提供した。 ブックスタートの読み聞かせに参加しているボランティアに対しての講座を2回開催するとともに、ファミリーサポートセンターに読み聞かせ実演の出前講座を実施した。 また、秋の図書館まつりにおいて、ボランティア団体がワークショップを開催し、読み聞かせ等のボランティア団体の活躍の場及び参加団体相互の情報交換の場を設け、活動を支援した。	図書館広報「らいぶらりい」において、ボランティア団体などの活動内容を紹介する。また、図書館まつりにおけるボランティア団体のワークショップを継続して実施し、ボランティア活動を支援する。 ボランティア団体主催の読み聞かせのレベルアップ講演会等の開催を支援する。語り手を増やすための講座をボランティア団体との共催で行う。
				子ども家庭支援センター	図書館と連携し、ブックスタート事業に子育て応援団Beeネットボランティアを派遣した。	図書館と連携し、ブックスタート事業に子育て応援団Beeネットボランティアを派遣する。
				図書館部	保健福祉センターでのブックスタートや3歳児健診において、保護者に絵本の読み聞かせの大切さを周知するとともに、出前講座として八王子ファミリーサポートセンター会員への読み聞かせ講座を行い、読書活動のレベルアップを図った。	ブックスタート事業や、出前講座等は継続実施するとともに、読み聞かせ講習の充実と読書活動のレベルアップを図るため、保育幼稚園課などの年間講習スケジュールに組み込むことができるか検討する。
	8	保育士や保護者への読み聞かせ講座等の実施	保育士や子育てひろば従事者等を対象とした研修プログラムの中に、読み聞かせ研修などを組み入れ、読書活動のレベルアップを図る。また、読み聞かせの手法を保護者にも伝え、家庭での読み聞かせにつなげる。	図書館部	保育参加や参観時に読み聞かせの場面を設け、読み聞かせの手法を保護者に伝えてきた。	保育参加や参観時に読み聞かせの場面を設け、読み聞かせの手法を保護者に伝える機会を継続して実施する。
				保育幼稚園課	子育て広場で絵本の読み聞かせを行い、子どもに絵本の楽しさを伝えると同時に、保護者に向けて読み聞かせの方法を伝えた。	子育て広場での絵本の読み聞かせ講座を通して、保護者に向けて読み聞かせの方法を伝える。
子ども家庭支援センター				子ども読書週間には、図書館で実施している「とじょかんこどもまつり」だけではなく、各関連所管においても読書活動に関する様々な事業を実施することで、市全体で読書に親しむ気運を盛り上げる。	子ども読書週間には、図書館で実施している「とじょかんこどもまつり」だけではなく、各関連所管においても読書活動に関する様々な事業を実施するように、関連所管が連携し、子ども読書週間関連事業として冠をつけた企画が実施されるように調整を図る。	
③ 情報発信と啓発活動	9	子ども読書週間での啓発活動	子ども読書週間には、図書館で実施している「とじょかんこどもまつり」だけではなく、各関連所管においても読書活動に関する様々な事業を実施することで、市全体で読書に親しむ気運を盛り上げる。	図書館部	子ども読書週間には、図書館で実施している「とじょかんこどもまつり」だけではなく、各関連所管においても読書活動に関する様々な事業を実施することで、市全体で読書に親しむ気運を盛り上げる。	子ども読書週間には、図書館で実施している「とじょかんこどもまつり」だけではなく、各関連所管においても読書活動に関する様々な事業を実施することで、市全体で読書に親しむ気運を盛り上げる。
	10	リーフレットの作成などによる情報周知	読み聞かせの意義、重要性を盛り込んだリーフレットや、おすすめ絵本等のリストなどを作成し、親子が読書に親しめる情報を、保育園や幼稚園など親子が利用する場所で配布する。また、母子手帳の配布の機会を利用し、図書館利用の促進に結び付けるための資料等を配布する。	図書館部	3~4か月児健診でのブックスタートにおいて、配布資料に図書館の利用案内やおすすめ本リストを入れて配布した。 また、4月から新たに保健福祉センターで配布を開始した、八王子版ネウボラ配布物に、「家と赤ちゃんに読んでほしい絵本」や図書館からのメッセージを入れ込み、図書館利用を勧めた。	既存の図書館情報発信を継続し読書活動の推進を図る。また、既存の情報発信の内容についてもよりよい方法があるかや、新たな図書館情報発信の方法を検討する。
	11	ホームページによる読書活動やイベント情報の発信	市のホームページに「子ども読書活動」のページを作成し、市内の子ども読書活動情報、イベントなどの情報発信や啓発活動を実施する。	図書館部	平成28年度に実施した読書感想文・読書感想画コンクールの入賞作品を掲載するとともに、各種イベント等の様子を積極的に公開し、市民への情報提供を行った。	引き続き、各種イベント等の情報を積極的に公表し周知を図るとともに、新システムでもホームページ等で市民のわかりやすいメニューを配置できるように情報アクセスの向上について検討を進める。

## 2. 学校における読書活動の推進に向けた取組み

① 学校図書館を中心とした読書活動の推進	12	学校図書館サポート事業の拡充	学校図書館サポートセンターの体制および機能の充実を図り、学校司書の全校への派遣を進めるとともに、研修体制や学校への支援体制を強化する。また、図書館システムのデータベースの活用を図り、学校図書館に係ることの調査・研究を行う。	図書館部	教育センター内に設置した図書館システム端末の活用により、学校図書館及び学校図書館サポート事業の支援を行った。 学校司書等への研修支援を継続して実施した。 学校司書と図書館との連携を密にし、図書館として、調べ学習や学級文庫用の資料を充実させた。 調べ学習や学級文庫用資料の希望調査を行い、457冊購入し、資料を充実させた。	学校司書等への研修支援を継続実施する。 学校司書と図書館との連携を密にする。 図書館における調べ学習や学級文庫用の資料を充実させる。
				指導課	児童・生徒の学校図書館を活用した調べる学習や読書活動の更なる充実を図るため、司書の資格を有する学校司書を7名増員、派遣校を80校から108校に拡大し、市立全小・中学校に配置した。	学校図書館のより一層の活用に向け、市立図書館とともに、学校図書館システムの内容について検討する。
	13	学校図書館の授業への計画的活用	「学校図書館活用全体計画」「学校図書館活用年間指導計画」に基づき、全教員が共通の理解をもって授業の中で学校図書館を計画的に活用できるようにするとともに、具体的な活用方法が分かるよう「学校図書館活用マニュアル」を作成し、児童・生徒の主体的な調べ学習や読書活動の充実を図る。	指導課	児童・生徒の読む力を高め、豊かな心を育むため、学校図書館活用全体計画及び活用年間指導計画を教育課程に位置付け、全校で、計画的な学校図書館を活用した授業や読書活動の促進につなげた。 また、児童・生徒の主体的な調べる学習や読書活動の充実を図るため、学校図書館の具体的な活用方法が分かる「学校図書館活用マニュアル」を作成・配布した。	全教員が共通の理解をもって授業の中で学校図書館を計画的に活用できるようにするとともに、調べる学習の推進に向け「調べる学習ガイド」を作成・配布し、児童・生徒の主体的な調べる学習や読書活動の促進を図る。
				指導課	学校における朝読書の推進、小学校での高学年による低学年への読み聞かせ、図書委員会活動の充実など、学校における読書環境整備を進め、児童・生徒自身による読書活動を推進していく。	学校や市立図書館と連携を図り、調べる学習コンクールを開催する。
	15	学校図書館の蔵書の充実	学校図書館を児童・生徒の主体的な学習活動を支援する「学習・情報センター」として機能させるため、各学校で計画的に蔵書整備を行う。	指導課	「学習・情報センター」として機能を高めるため、古い内容や破損が激しい図書の廃棄を進め、不足している分野の図書を購入するなど計画的に蔵書管理を行った。	学校図書館図書標準達成率や配分比率を考慮し、計画的に図書を購入する。
				施設管理課	学校整備額（図書購入費） 小学校 23,919,403円 中学校 12,071,934円	(予算計上済み)
16	特別な支援が必要な児童・生徒への読書活動の推進	特別な支援を必要とする児童・生徒への理解を深め、障害の状態に応じた選書やICTの活用環境の工夫を図るなど、公共図書館と連携して読書活動支援の推進を図る。	教育支援課	第三次特別支援教育推進計画に基づき、支援の必要な児童の就学にあたり拡大読書機による視覚的支援（小学校1校）を行った。	第三次特別支援教育推進計画に取組む中で障害のある児童・生徒の読書活動についても推進を図る。	

計 画 内 容			所管部名	平成28年度 実績	平成29年度 実施計画	
No.	具体的な取組み	取組み内容				
② 子どもの読書活動に関わる人材の育成・支援・連携	17	研修の充実	司書教諭研修会、学校司書研修会、教職員の資質・能力の向上を目的とするパワーアップ研修会を計画的に実施し、学校図書館の活用や環境整備、積極的な公立図書館との連携について理解、啓発を図り、学習活動や読書活動の充実につなげる。	図書館部 指導課	学校図書館サポートセンターと連絡会を行い、情報交換を行った。 学校図書館サポートセンター主催の学校司書への研修等で講義を行い、学習活動や読書活動の充実を行った。	連絡会で情報交換を行うとともに、教員等への研修について、学校図書館サポートセンターと連携を図り支援を行う。 指導力パワーアップ研修会等を計画的に実施し、教職員及び学校司書の能力・資質向上を目指す。 また、効果的な研修が行えるように講師選定の充実を図る。
	18	学校図書館ボランティアの充実と活動支援	学校内で活動している学校図書館ボランティアに対する研修を充実させ、読み聞かせの技術の向上や図書整備、実技講習の充実を図り、学校図書館ボランティアの活動を支援する。また、相談の受け付けなど、サポート体制を強化する。	図書館部 指導課	学校図書館ボランティアに、学校現場のニーズに合った実務的な講義を実施することにより、レベルアップを図った。 児童・生徒が読書を好きになるような環境づくりにつながるよう「読み聞かせ」「紙芝居の演じ方」「本の修理方法」など、学校図書館ボランティア研修を実施した。 また、学校図書館ボランティアの要望による巡回訪問を実施した。	学校図書館サポートセンターと連携を図り、学校図書館サポートセンター主催の研修で、読み聞かせ等の講義を行い、学校図書館ボランティアの活動を支援する。 学校内で活動している学校図書館ボランティアに対する研修を充実させ、読み聞かせの技術の向上や図書整備、実技講習の充実を図る。
	19	地域の連携による学校図書館の活用	地域、PTA、ボランティア団体等の協力を得て、児童・生徒が本に親しみきっかけづくりや読書習慣を身に付けることを目的として、地域の子どもの保護者、学童保育所や放課後子ども教室が学校図書館を利用できる機会を作る。	図書館部 児童青少年課 生涯学習政策課	未実施 一部の学童保育所において、学校への働きかけにより、学校図書館の利用を促進し、読書活動を推進した。 放課後子ども教室では、保護者や地域の協力を得て、9校で読み聞かせを実施した。	学校図書館の活用として、施設等体制が整ったところから、地域の子どもの保護者、学童保育・放課後子ども教室に対して、学校図書館が利用できるような、施設等体制が整ったところから、児童青少年課や生涯学習政策課などと連携し、小中学校長会などに働きかける。 学童保育所において、学校図書館の利用拡大に努め、読書活動の推進を図る。 保護者や地域の協力を得て、読み聞かせなどを継続し、本に親しむ環境を作る。
③ 情報発信と啓発活動	20	教員への情報発信と啓発活動	小中学校における読書活動の取組み事例・指導事例を集約してデータベース化し、発信・共有化を推進する。また、図書館ホームページにおける学校支援ページ(学校用学習資料の提供、調べ学習援助等)の充実を図る。	図書館部 指導課	学校司書へ、図書館の学校資料の利用方法の説明を行うとともに、学校図書館に利用案内を配布し、教員への図書館利用等への情報発信をした。 学校図書館を活用した調べる学習や読書活動の推進を図るため、管理職、司書教諭や初任者等の研修会を実施した。 また、広報紙「としょえもん」を発行し、学校の取組み状況について情報を提供した。	図書館ホームページでの学校用学習資料の提供や調べ学習援助等データの充実を図る。 学校図書館と学校司書に、図書館の学校資料の利用方法の案内を配布するなど、教員への図書館利用等への情報発信をすすめる。 教員と学校司書が連携を図り、調べる学習や読書活動などで学校図書館を活用した授業状況について、取組み情報を集約し、データを公開する。
	21	児童・生徒、保護者への情報発信と啓発活動	公共図書館や学校司書からのおすすめ本リストをホームページに公開したり、学校日より等を通じての成長期における読書の意義の啓発等を行う。 (夏休みの調べ学習案内の見直しと配布)	図書館部 指導課	夏休みに向け、小中学生向けのおすすめ本を図書館職員により選定し、おすすめ本リストを各図書館に配備し、市内全小中学校に配布すると共に、図書館ホームページに掲載した。 図書館広報「らいぶらりい」(年4回)を小中学校、保育園・幼稚園など子育て所管へ配布し、図書館ホームページにも掲載し、図書館からの情報発信に努めた。 図書館に調べものに役立つ資料があることを小学生にもわかりやすいように漫画で描いたリーフレット「図書館で調べものをしてみよう！」の内容を現状に合わせて更新し、「図書館で調べものをしてみよう！」を小学4.5.6年生に夏休み前に配布した。 広報紙「としょえもん」の発行や、おすすめ本リストのホームページへ公開するなど、児童・生徒への啓発活動を行った。	小中学生向けの夏のおすすめ本リストについて、教育センターと図書館で別々に作成しているが、有効な活用が図れるよう調整する。 図書館ホームページにおすすめ本のリストを掲載する。 保育園や幼稚園など子育て所管へ、図書館広報「らいぶらりい」などを配布し、読書情報の周知を図る。 リーフレットを図書館内で配布すると共に、市内の小中学校にも図書館に調べものに役立つ本があることを知ってもらうために、新4年生に配布する。 おすすめ本の特集リストを作成し、児童・生徒の読書活動の推進を図る。 更に、調べる学習体験講座及びコンクールを開催し、調べる学習及び読書活動の啓発に努める。
	22	年代に応じた児童図書書の充実と探しやすいコーナーの整備	子どもの年齢や発達段階に応じた本をそろえ、親子が利用しやすい空間づくりや、児童が本を探しやすいコーナーづくりに努める。中学生や高校生の読書傾向の把握にも努め、中学生・高校生向けの蔵書とコーナーの整備を図る。	図書館部	児童書や年代に応じた図書の購入を図ると共に、各館の状況に応じて、児童コーナーなどで探しやすい本の配置を行った。 こどもととしょえもんまつりや、中学生職場体験などにおいて、児童生徒が読みたいおすすめ本を参加者にポップを書いてもらい、館内に掲示した。	児童書など年代に応じた図書の購入を図ると共に、各館の状況に応じて児童コーナーなどで探しやすい本の配置を行う。 こどもととしょえもんまつりや、中学生職場体験などにおいて、児童・生徒が推薦する本を参加者にポップ等を書いてもらい、館内に掲示する。
① 図書館における読書環境整備や企画事業による読書活動の推進	23	子どもの図書館体験活動への参加の拡充	一日図書館員や職場体験、ボランティアなど、子どもが図書館を実体験する中で、図書館への理解と利用促進を図る。	図書館部	4月に子ども読書の日にかけて「こどもととしょえもんまつり」を実施し、中央図書館で小学生向けに図書館たんけんたいを2回(参加者28名)実施した。 また、夏休み期間に、図書館4館において、一日図書館員(12回108名)、中学生ボランティア(4回20名)、としょえもんたんけんたい(2回30名)、手づくり絵本の作成(4回97名)などの企画を実施した。 さらに、年間を通じて、図書館4館で中学生の職場体験(31校93名)を受け入れ、図書館での体験活動を実施した。 中学生が参加しやすい企画を検討し、図書館まつりで中学生を対象にレファレンス講座を開催した。(参加者13名)	夏の中学生ボランティアの内容を見直し、中学生が参事らにしやすい企画を検討する。 図書館探検隊、一日図書館員、職場体験、ボランティアの受け入れを継続して実施する。
	24	おはなし会等親子が参加できる事業の実施	おはなし会や工夫あるイベントにより、これまで読書に興味を持っていない子どもやその保護者に対し図書館に興味を持ってもらうように働きかけを行う。親子が一緒に楽しむ中で、図書館や本に親しむ機会を作る。	図書館部	幼児や児童などが図書館に興味を持っているような企画を各図書館で実施した。 ①おはなし会：中央館：34回388名 生涯館：15回387名 南大沢館：36回683名 川口館：13回582名 ②としょえもんこどもまつり(4月23・24日全館325名) おはなし会、わらべうた、図書館、たんけんたい、切り紙、児童書リサイクル、おすすめ本のポップ作成会、工作会など ③なつやすみ工作会(おはなし会)1回33名 ④手づくり絵本(作成会)4回97名 ⑤クリスマス会(工作会含む)4回171名	定期的なおはなし会や季節ごとのイベントを継続的に実施するとともに、ホームページ等により効果的に保護者への周知を図る。 子どもや保護者が興味を持ち、参加できる企画について検討する。

### 3. 公共図書館における読書活動の推進に向けた取組み

① 図書館における読書環境整備や企画事業による読書活動の推進	22	年代に応じた児童図書書の充実と探しやすいコーナーの整備	子どもの年齢や発達段階に応じた本をそろえ、親子が利用しやすい空間づくりや、児童が本を探しやすいコーナーづくりに努める。中学生や高校生の読書傾向の把握にも努め、中学生・高校生向けの蔵書とコーナーの整備を図る。	図書館部	児童書や年代に応じた図書の購入を図ると共に、各館の状況に応じて、児童コーナーなどで探しやすい本の配置を行った。 こどもととしょえもんまつりや、中学生職場体験などにおいて、児童生徒が読みたいおすすめ本を参加者にポップを書いてもらい、館内に掲示した。	児童書など年代に応じた図書の購入を図ると共に、各館の状況に応じて児童コーナーなどで探しやすい本の配置を行う。 こどもととしょえもんまつりや、中学生職場体験などにおいて、児童・生徒が推薦する本を参加者にポップ等を書いてもらい、館内に掲示する。
	23	子どもの図書館体験活動への参加の拡充	一日図書館員や職場体験、ボランティアなど、子どもが図書館を実体験する中で、図書館への理解と利用促進を図る。	図書館部	4月に子ども読書の日にかけて「こどもととしょえもんまつり」を実施し、中央図書館で小学生向けに図書館たんけんたいを2回(参加者28名)実施した。 また、夏休み期間に、図書館4館において、一日図書館員(12回108名)、中学生ボランティア(4回20名)、としょえもんたんけんたい(2回30名)、手づくり絵本の作成(4回97名)などの企画を実施した。 さらに、年間を通じて、図書館4館で中学生の職場体験(31校93名)を受け入れ、図書館での体験活動を実施した。 中学生が参加しやすい企画を検討し、図書館まつりで中学生を対象にレファレンス講座を開催した。(参加者13名)	夏の中学生ボランティアの内容を見直し、中学生が参事らにしやすい企画を検討する。 図書館探検隊、一日図書館員、職場体験、ボランティアの受け入れを継続して実施する。
24	おはなし会等親子が参加できる事業の実施	おはなし会や工夫あるイベントにより、これまで読書に興味を持っていない子どもやその保護者に対し図書館に興味を持ってもらうように働きかけを行う。親子が一緒に楽しむ中で、図書館や本に親しむ機会を作る。	図書館部	幼児や児童などが図書館に興味を持っているような企画を各図書館で実施した。 ①おはなし会：中央館：34回388名 生涯館：15回387名 南大沢館：36回683名 川口館：13回582名 ②としょえもんこどもまつり(4月23・24日全館325名) おはなし会、わらべうた、図書館、たんけんたい、切り紙、児童書リサイクル、おすすめ本のポップ作成会、工作会など ③なつやすみ工作会(おはなし会)1回33名 ④手づくり絵本(作成会)4回97名 ⑤クリスマス会(工作会含む)4回171名	定期的なおはなし会や季節ごとのイベントを継続的に実施するとともに、ホームページ等により効果的に保護者への周知を図る。 子どもや保護者が興味を持ち、参加できる企画について検討する。	

計 画 内 容			所管部名	平成28年度 実績	平成29年度 実施計画	
No.	具体的な取組み	取組み内容				
② 子どもの読書活動に関わる人材の育成・支援・連携	25	体験型イベントの実施	読書感想の発表や意見交換ができるようなイベントを開催することにより、子どもが自分の読書活動の中で得たものを実感し、他者と共有していくことができるような、子ども自身が参加、体験できる企画事業を実施する。	図書館部	読書感想画・感想文コンクールを開催し、読書を通じて子どもが表現できるような事業を開催した。平成28年度応募数(読書感想画1,411点 読書感想文4,348点) また、中学生の職場体験時に「おすすめの本の紹介や、ポップ作成を実施した。	平成29年度も読書感想画・感想文コンクールを実施し子どもたちからの作品を募り表彰をする。そして、中学生の部の上位入賞者を海外友好都市台湾・高雄市へ国際ジュニアフレンドとして派遣する。 また、その他のイベントも実施を継続しつつ、より効果的な事業について引き続き議論し検討する。
	26	図書館利用に特別な支援が必要な子ども等への読書活動支援	発達段階、障害に応じた資料の整備を行い、来館時における図書館利用や調べ学習の援助を実施する。また、手話おはなし会などの事業も継続的に実施する。 日本語を第一言語としない子どものための資料の整備と支援を実施する。	図書館部	聴覚障害のある児童を対象とした「手話しゅわおはなし会」を3回開催し、37人の参加があった。 また、ボランティア団体の協力により、視覚障害者の利用者を対象として資料の点字化やデジタル化を進めた。(音訳180点、点訳14点)	コミュニケーション手段が手話である子どもへの読書活動支援として「手話しゅわおはなし会」を開催し、図書館や本に親しむきっかけを作るようにする。
	27	児童サービス担当職員等のレベルアップ	職員の研修への参加や担当職員間の情報交換、文庫活動等との交流により、最新の子どもの読書活動の情報や、子どもたちのニーズの把握に努めるとともに、読み聞かせ等の技術向上を図り、職員としてのレベルアップを図る。	図書館部	都立図書館主催の研修や図書館大会などでの講演会、また図書館総合展などに職員・嘱託員を派遣し、児童担当職員のレベルアップを図った。 (都立図書館主催児童図書館専門研修、東京都多摩地域公立図書館大会(基調講演・分科会)、図書館総合展など) また、図書館でおはなし会を実施している「八王子おはなしの会」と意見交換を行い、スキルアップを図った。	職員の研修への参加や担当職員間の情報交換、文庫活動等との交流により、最新の子どもの読書活動の情報や、子どもたちのニーズの把握に努めるとともに、読み聞かせ等の技術向上を図り、職員としてのレベルアップを図る。
	28	ボランティアの育成と活動支援	研修、講座などを通して読み聞かせボランティア等の育成を図る。また、相互に情報交換を図り、学びの成果を活かし、ボランティアがおはなし会等や事業に積極的に関わってもらえるよう活動支援を行う。	図書館部	図書館まつりにおいて、「楽しい図書館いろいろ体験」として、図書館を中心に活動する7つのボランティア団体が、日ごろの成果を発表したり、体験・実演したりできる紹介ブースを設置し、ボランティア活動の市民への周知を支援した。 また、ブックスタートボランティア対象に2回学習会を実施し、約30名のボランティアが参加した。(赤ちゃんへの接し方・わらべ唄の効能など)	研修、講座などを通して読み聞かせボランティア等の育成を図る。 相互に情報交換を図り、学びの成果を活かし、ボランティアがおはなし会等や事業に積極的に関わってもらえるよう活動支援を行う。 図書館として新たに新たに図書館ボランティアを募集する。
	29	市民団体等との連携・支援	子どもの読書活動に関わるサークルや団体が、活発に地域で活動できるよう協力体制の整備や、情報交換の場の提供など、支援を行う。	図書館部	各種ボランティア団体との情報交換(図書館まつり実行委員会など)や、ボランティア団体との共催イベント(図書館まつりなど)を開催し、活動の場の支援を行った。(夏休みイベントや図書館まつり、手づくり本展など)	引き続き、情報交換や各種イベントへ参加してもらい協力体制の整備や支援を行う。
30	学校支援サービスの充実	教科指導のテーマに沿った図書資料を収集し提供する。子どもレファレンスシート作成や、子どもたちへの調べ学習支援を行うとともに、教員研修の受け入れや、図書館利用方法の講座、ブックトークなどを実施する。	図書館部	学校図書館サポートセンターと連絡会を行い、情報交換を行った。 学校図書館サポートセンター主催の調べ学習講座で、図書館利用の案内を行った。 第七中学校でのブックトークを行った(173名参加)。 学校配送便の貸出資料の充実と貸出体制の強化(嘱託員1名増)による大幅な貸出増加ができた(貸出冊数:34,448冊前年度比16%増)。	学校図書館サポートセンターとの連絡会で情報交換を行うとともに、調べ学習講座等について、学校図書館サポートセンターと連携し支援を行う。 学校図書館サポートセンターの各種講座への参加やブックトークを行う。 学校配送便の回数を週1回として利用しやすくするとともに、調べ学習用資料の充実を図る。	
			指導課	教員への研修会の実施や学校への定期的な巡回訪問での資料提供を行った。 また、児童・生徒に対しては、学校図書館利用オリエンテーションや学校司書によるブックトークを実施した。	必要に応じた訪問支援、各種研修会の開催や学校司書の派遣を行い、学校図書館のさらなる活用を目指す。 また、学校図書館システムの整備及び活用について検討する。	
③ 情報発信と啓発活動	31	イベントやコンクール等開催による読書活動の啓発	子ども読書の日や図書館まつりでの取組み、コンクール等の実施を通して、読書への関心や理解を深める。	図書館部	春の「としょかんこどもまつり」、秋の「図書館まつり」、夏休み中の小中学生向けイベントのほか、「読書感想画・感想文コンクール」を実施し、児童・生徒の読書への関心を深める活動を行った。	子ども読書の日や図書館まつりでの取組み、コンクール等の実施を通して、読書への関心や理解を深める。 各イベントの情報を、図書館ホームページ、市ホームページのイベント欄に掲載し、情報発信する。
	32	図書館ホームページ、子どものページの充実	図書館ホームページ内の子どものページを中心に、イベント情報やおすすめ本リストの掲載など充実を図る。また、中高生の図書館利用促進のため、十代の若者向け情報のページを新設する。	図書館部	図書館ホームページの子どものコーナーにキッズページを掲載し、お話会やイベントの情報を掲載した。 また、小中学生に向け夏のおすすめ本リストを作成しホームページに掲載した。	引き続き、図書館ホームページに子どものイベント情報やおすすめ本のリストを掲載し、周知に努める。 また、新システムのなかで子どものページの充実に向けて検討を進める。
	33	図書リストや啓発リーフレットの作成・配布	調べ学習に役立つ図書やおすすめ本リストや啓発リーフレットを作成し配布。読書離れや図書館利用が少ない中高生向けにもおすすめ本リストも作成し配布する。	図書館部	「2016南大沢図書館員が選んだイチオチBOOK N」として、主に中高生へのおすすめするブックリストや、小中学生対象の「夏のおすすめ」のリストを作成配布した。 また、中央図書館調べ学習室で所蔵しているおすすめの本を掲載したリーフレット「調べ学習室調べものに役立つ本」を配布した。	小中学生向けのおすすめ本リストを作成し、中学生からのおすすめの本の冊子化を各館と調整を行う。 リーフレットに新しく受け入れた資料を載せるなど最新の内容となるよう検討する。
	34	図書館利用者登録の増進	図書館の利用促進を図るため、新たに市内全小学生の一定学年で利用者カードを配布する。また、中高生向けに利用者カード更新制度についての周知を行うなどし、継続的な図書館利用を促す。	図書館部	図書館と同一地域にある小学校を中心に、児童の利用登録を学校と協力して行った。 小学校との連携を確立している途中で、中学校・高校への周知には至っていないが、中学生・高校生の職場体験は積極的に受け入れ、担当教諭へ児童・生徒の図書館利用促進を働きかけた。	引き続き、地域にある小学校と協力しながら、児童の利用登録を促進させる。 また、市内中学校・高校に対し、八王子市図書館利用案内を各校の図書室に置いてもらえるよう依頼するなど生徒への周知を図る。

計 画 内 容			所管部名	平成28年度 実績	平成29年度 実施計画	
No.	具体的な取組み	取組み内容				
<b>第二章 生涯読書活動編</b>						
<b>1. 地域における読書活動の推進に向けた取組み</b>						
① 地区図書館の充実及びサービス向上への推進	35	地区図書館からの情報発信	地区図書館の活動状況を、広く市民に知ってもらうため、新たに各地区図書館の利用方法やイベント等の情報発信をふれあい財団等のホームページ等で周知する。	図書館部 未実地	八王子市図書館ホームページの地区図書案内のページと八王子市学園都市文化ふれあい財団のホームページ内の地区図書案内のページをリンクさせることにより、地区図書室の活動を支援するため、ふれあい財団と調整を行う。	
	36	地区図書館の利便性向上	地域にあった蔵書の充実、本の検索や貸出サービスの向上を図ると共に地区図書館の情報共有と交流を行いながら地域にあったサービス提供を実施する。特に開室日時の拡充など積極的にサービスの充実に取組む地区図書館に対しては、蔵書をパソコンで管理するシステムの導入や物流体制の強化を行う。	図書館部	各地区図書館からの要望を踏まえた希望図書を年間2,622冊配布した。 10月に、地区図書館にリサイクル本を配布した。 地区図書館のエクセルによる蔵書管理について、アドバイス等を行った。 週2回、中央図書館と各地区図書館を結ぶ交換便を実施	希望図書については、年間3,000冊の配布を予定 10月にはリサイクル本を配布予定 エクセルによる蔵書管理を継続して実施する。 週2回の地区図書館への交換便を実施する。
				協働推進課 ふれあい財団	学園都市文化ふれあい財団のホームページに各地区図書館の開室日時を掲載した。	学園都市文化ふれあい財団のホームページに地区図書館の利用方法を掲載する。 読み聞かせ等の地区図書室ごとのイベント情報を掲載する。
37	地区図書室従事者のスキルアップ	企画事業のアドバイスや研修会・講習会を定期的継続的に実施する。	図書館部	各地区図書館の従事者との話し合いの場を設けた。 また、全地区図書室従事者を対象とした研修会を実施した。	研修会や講習会等を実施し、地区図書室従事者のスキルアップを図る。	
			協働推進課 ふれあい財団	各地区図書館の選書に基づき、中央図書館から児童書等の新刊書の配本を受けた。 中央図書館の団体貸出しにより書籍の入れ替えを継続的に行った。 中央図書館からのリサイクル本により地区図書館の蔵書を充実させた。	各地区図書館の選書に基づき、中央図書館から児童書等の新刊書の配本を受ける。 中央図書館の団体貸出しにより、定期的に図書の入れ替えを行う。 中央図書館のリサイクル本により地区図書館の蔵書を充実させる。	
② 地区図書館の分館化	38	地区図書館の図書館分館化の推進	より身近な場所で読書に親しめるために、環境や条件が整った地区図書館について図書館分館化を推進する。	図書館部	地区図書館の図書館分館化についての基本方針、基本計画を策定し、各地域との話し合いや、関係団体、関係所管との調整を行った。	計画実現に向け、アクションプラン実施計画の作成及び住民協議会との調整を行う。
				協働推進課 ふれあい財団	中央図書館と調整・協議を行い、市民図書館化に向けて住民協議会へ説明を実施した。	中央図書館と市民図書館化へ向けて調整・協議を行う。
<b>2. 学校における読書活動の推進に向けた取組み</b>						
① 市内大学と公共図書館との連携	39	大学図書館の利用機会の充実	公共図書館と市内大学図書館との連携を強化し、市民に大学図書館の利用情報等を提供する。また読書サービスを提供する場所の1つとして、市民の大学図書館利用の拡大・充実に図り、普段目にすることが少ない専門書に触れる機会を提供する。	図書館部	平成27年度までに八王子市の地域資料を受け入れた大学に対して、追加資料を送付した。 図書館ホームページにて、市民が利用できる大学図書館の案内を掲載し、市民への情報提供を行った。	引き続き、市内大学図書館における地域資料の充実と協力するほか、市民にも大学図書館の一般利用を広く周知させる。 中央大学との包括連携協定を足がかりとして、市民の読書環境向上を目的とした調査研究等を行う。 また、帝京大学と連携しビブリオバトルを開催する。
	40	大学生等の受入	図書館が行う事業に、学生が企画立案から参加する仕組みと職業体験が出来る環境を整え、キャリア教育の一環となるよう大学生等を受け入れる。	図書館部	読書感想文・感想画コンクール表彰式に、市内大学の学生ボランティア（2名）を受け入れた。 市内在住大学生の申し出による、自作の紙芝居上演を平成29年度こどもまつりで実現できるよう企画した。 また、中央図書館では、インターンシップ3名、司書資格取得のための図書館実習生3名を受け入れた。	今後も、大学コンソーシアムと連携し、職業教育につながる内容で学生ボランティアを受け入れる。 図書館事業に学生が企画から主体となって取り組めるような仕組みを検討するとともに、学生のアイデアは積極的に実現できる方向で模索する。 大学生等のキャリア教育のため、インターンシップを積極的に受け入れる。
<b>3. 公共図書館における読書活動の推進に向けた取組み</b>						
① 市民の学習活動・課題解決への支援	41	図書館からの多様な情報発信	八王子市に関連のある著名人のおすすめ本のリストなどを作成し、ホームページ等で紹介する。また、図書館の魅力や可能性をアピールする講座を開催する。	図書館部	図書館ホームページにおすすめ本として、テーマリストや八王子が出てくる本のリストを掲載した。 図書館まつりで、ワークショップや講演会を開催し、図書館活動をPRをした。 図書館4館において、各々児童テーマ展示や男女共同参画週間や終戦記念日等、時節にあったテーマ展示を実施した。	図書館ホームページにテーマ展示のリストを各館でも掲載する。 100年応援団の方々の「おすすめ本」を紹介し、読書のきっかけづくりとする。 100周年記念事業として図書館まつりを開催し、図書館の魅力や可能性について、よりPRする。 100周年や、姉妹都市・海外友好交流都市などを意識し、各図書館で特徴あるテーマ展示を定期的に行う。
	42	市民の求めに応じた情報提供	生涯にわたって学ぶ市民が、身近な問題で疑問を感じた際に必要な情報を提供し、手助けする課題解決サービスの充実を図る。	図書館部	「医療情報コーナー」「ビジネス支援コーナー」を常設設置し、中央図書館では、課題解決型のテーマ展示を中心に年間16テーマ実施を実施した。 また、年間約19,000件のレファレンスを通じて市民の課題解決に努めた。	常設コーナー、レファレンスを引き続き継続する。 また、各館で行うテーマ展示に課題解決型のテーマを選ぶことで、サービスの拡充を図る。
	43	地域連携のサービス拡大	八王子市が広域連携を結んでいる自治体図書館の市民利用の促進を図るために利用情報の提供に努めると共に、八王子市民が連携市の市民と同等の条件で本の貸出や調べもの支援サービスを受けられるよう改善を図る。	図書館部	京王線沿線7市連携会議において、平成27年度に提出した要望書同様、八王子市民が各自治体市民と同等の条件でのサービスを受けられる様、継続して各連携市に要請した。 なお、あきる野市及び相模原市については同等の条件でのサービスが受けられた。	引き続き、連携各自治体に対し、連携市の市民と同等の条件でサービスを受けられるよう要請する。（あきる野市及び相模原市を除く。）
	44	読書環境のPR	市民が利用できる公共図書館・地区図書館・大学等の図書館マップを新たに作成し、市の関連施設や企画事業等で配布し利用促進を図る。	図書館部	子育てサポートマップや京王線七市連携ガイドブック、八王子施設マップなどに各図書館を掲載することで施設のPRに努めた。	引き続き、子育てサポートマップや京王線七市連携ガイドブックなど図書館関連施設が掲載されたマップ類を図書館まつり、おはなし会等の企画事業で積極的にPRする。 今後の図書館整備に合わせ市民ニーズに応じたマップ内容を検討する。

計 画 内 容			所管部名	平成28年度 実績	平成29年度 実施計画	
No.	具体的な取組み	取組み内容				
② ICTを活用したサービスの展開	45	利用しやすい図書館システムの導入	次期システム更新時に、市民が利用しやすい機能をもった図書館システムの導入を目指す。	図書館部	図書館システムの更新及び学校図書館システムの構築に向け、関連所管に働きかけ、新システム検討会を発足した。	図書館システム更新による新たな図書館システムの導入に向け、学校図書館システムとの連携などの新たな取組の検討により、児童・生徒や一般市民にとって利用しやすいシステムを目指す。
	46	電子情報の提供	図書館に来館しなくても図書の貸出が受けられる電子書籍の導入を目指す。また、市民から寄せられた調査・調べ物の結果をデータベース化しホームページ上に公開する。	図書館部	市民の方から寄せられた調査（レファレンス）のうち、八王子市に関するものなど参考になりそうな事例を従来から掲載している事例に加え、更に31件図書館ホームページに掲載し、公開した。	ホームページに公開するレファレンス事例を追加して掲載する。 また、著作権などデジタルアーカイブ提供についての課題を整理する。
③ユニバーサルデザインに基づく読書環境づくり	47	障害のある人や高齢者への支援	障害のある人や高齢者が利用しやすいようにサービス（対面朗読や手話のお話会など）の一覧をのせたページを図書館ホームページに作成する。また、高齢者施設への出張図書館サービスを本格実施するとともに、寝たきりの方が利用される宅配サービスを充実させ利用者の拡大を図る。	図書館部	図書館システムの改修に合わせてホームページに障害者・高齢者サービスの一覧を掲載するための検討を行った。 図書館報「らいぶらりい」に障害者・高齢者のサービスについての特集を掲載した。 障害者や高齢者が利用しやすいように、出張図書館のほか次のサービスを実施した。 ・高齢者施設へ試行による出張図書館（3施設へ 12回訪問、2,520冊を貸出） ・宅配サービス（4館で21名に、181回実施、765冊を貸出） ・対面朗読（4館で16名に、415回実施）	平成30年4月から図書館ホームページに障害者サービス等についての案内を掲載できるように準備を行う。 出張図書館の本格実施に向け課題の整理を行う。
	48	資料の充実	目の不自由な方への資料提供としてデージー（DAISY）の充実を目指す。障害者や高齢者の方の読書環境充実のため、拡大字本や文字の大きさを自由に換えられる電子書籍の導入を目指す。図書館で所蔵するユニバーサルデザインに関連する資料については、ホームページに資料の一覧を掲載し周知する。	図書館部	ユニバーサルデザインに関連する資料の一覧の作成を行った。 八王子関連図書として、「声のくらしの便利帳」など6点のデージー化を行った。 障害者や高齢者の方の読書環境を充実させるため、拡大字本（大活字本）を全館で75冊受け入れた。電子書籍については導入に関する調査や検討を行った。	八王子関連のデージーの制作を行う。 障害者や高齢者の方の読書環境を充実させるため拡大字本（大活字本）の収集を行う。電子書籍に関してはシステム改修に合わせて導入を検討する。
	49	多文化サービスの展開	日本語の読書が困難な外国人に、日本語以外で書かれた原書によるテーマ展示などを行うとともに、資料の一覧や多言語の利用案内をホームページに掲載する。また外国語（当面は英語のみ）の話せる職員を配置しサービスを展開する。	図書館部	外国語（英語）の話せる職員・嘱託員が生涯館に在籍し、外国語資料のテーマ展示やホームページにもリストを掲載し利用を促した。	外国語の図書館利用案内の改訂版を作成し、改訂内容のホームページへの掲載を行う。また、英語だけでなく中国や韓国の資料もテーマ展示としてPRできるように検討する。
④ボランティア・市民団体など地域との連携	50	ボランティア団体や市民団体の育成	本の修理や講師派遣など、学校等から要望の多い項目について、図書館が学校とボランティア団体や市民団体との間に入り、必要とする市民団体を紹介するコーディネートの役割を果たす。また、ボランティア団体と市民団体の育成とスキルアップを支援する。	図書館部	小学校から製本講習会開催の講師派遣相談があり、市図書館員がコーディネイトを行った。	学校等から講師派遣依頼等があった場合は、ボランティア団体、市民団体と連携を取り、講師を派遣する。
	51	ボランティア団体活動への支援と市民協働	ボランティア団体を紹介するページをホームページに作成し、ボランティア活動を支援する。また、市民の目線からのテーマ展示や図書館事業における市民協働の充実を図る。	図書館部	図書館まつりに、ボランティア団体による催しコーナーを開設し、日ごろのボランティア活動に基づく催し物を実施するとともに、ボランティア団体の活動成果を発表展示することにより、各ボランティア団体の活動のPRに努めた。	図書館ホームページにボランティアの活動PRページをつくることを検討し、ボランティア活動の支援を継続して行う。
⑤専門職員の資質向上	52	専門職のスキルアップ	図書館機能の1つであるレファレンスサービスを市民に周知し、市民から寄せられる課題に柔軟に対応できるよう、司書資格を有する職員のレファレンス力強化に向け、研修制度の整備と充実を図る。	図書館部	レファレンスサービス（調べ物相談）について、市民への周知を図るため、図書館ホームページに掲載しているレファレンス（相談）事例を追加し、更に31件を掲載した。また、都立図書館主催のレファレンス研修に、職員及び嘱託員を派遣し、職員のスキルアップを図った。 著作権実務研修（文化庁）1名、レファレンス共同データベース研修（国立国会図書館）1名、レファレンス研修3回（都立図書館「東京情報」「健康・医療情報」「美術情報」「ビジネス情報」「講師養成講座」）5名ほか	レファレンス事例を図書館ホームページに掲載することにより、図書館機能の1つであるレファレンス・サービスを市民に周知する。市民からの問い合わせに柔軟に対応できるよう都立図書館主催の研修への参加や、館内での研修実施に向けた検討を行う。
⑥質の高い蔵書の充実	53	蔵書の充実	市民の課題解決や、暮らしに役立つ資料を適切に提供する役割を担う図書館として、質の高い蔵書の充実を図り、長期的な蔵書の保存計画を作成する。	図書館部	市民からのリクエスト等を参考にして、「八王子市図書館資料収集方針」に基づき、市民の課題解決や暮らしに役立つ資料を適切に系統だてて収集に努めた。その結果、年度末における蔵書数は、市全体で163万6千冊（対前年度比1万1千冊増）となった。また、一方で資料の精査を行い、資料の質を高めた。	市民の課題解決や、暮らしに役立つ資料を適切に提供する役割を担う図書館として、適切な資料収集に努め、質の高い蔵書の充実を図る。 また、課題となっている蔵書の保存計画については、検討を継続する。
⑦図書館利用のサポート	54	施設・設備の改善	中央図書館地下展示室の活用方法を整理し、市民への有意義な図書館サービスの展開が可能となるよう検討を進める。また、館内表示が日本語表記のみのため、施設整備を行う際には外国語表記の案内版などを設置し、グローバル化を図る。	図書館部	中央館の利用者用トイレの改修を行い、利用者の利便性向上を図った。 生涯館の入口の英語表記を修正し改訂版を掲示した。	中央図書館地下の展示室の有効な活用方法を検討し、活用方法に合わせた展示室の改修計画を作成する。 また、中央図書館の大規模改修については、施設の統合維持管理計画を策定し、平成30年度以降の実施に向けた準備を行う。 図書館内の表記については、外国語の見直しを行い、各館でも表記できるようにする。また英語以外の表記についても検討する。